

II 医療AIのための人材育成の現状と展望

特集
医療AI
の普及拡大と
さらなる展開

特別インタビュー 順天堂大学健康データサイエンス学部がめざす人材育成 健康総合大学・大学院大学の強みを生かし 「社会展開」「教育」「研究」の3つの柱で 人材を輩出して社会に貢献

青木 茂樹 氏

順天堂大学健康データサイエンス学部学部長 / 大学院医学研究科放射線診断学教授

人工知能 (AI) の社会実装が進む一方で、研究開発のための人材不足が指摘されている。こうした状況を踏まえ、データサイエンス系学部の新設ラッシュとなっている。順天堂大学では、2023年4月に健康データサイエンス学部を開設。医療からスポーツまで、幅広い領域で活躍するデータサイエンティストを育成している。健康データサイエンス学部がめざす人材育成について青木茂樹学部長に確かめた。

データサイエンス人材のニーズを踏まえ 健康総合大学の強みを生かした学部を開設

— 順天堂大学が健康データサイエンス学部を開設した目的を教えてください。

近年の AI ブームによりディープラーニングによる画像認識の精度が向上し医用画像への応用も進むなど、医療 AI が急速に発展しており、データサイエンスの重要性が高まっています。このような状況を踏まえ、順天堂大学の中で、データサイエンスの人材を確保するために、自ら育成することが必要と考えました。さらに、本学だけでなく社会全般においても、ヘルスケア分野のデータサイエンスにかかわる人材の需要が高まる中、そのニーズに応えるために健康データサイエンス学部を開設することになりました。本学は医療、スポーツなどにかかわる健康総合大学ですが、医療に関しては、医学部をはじめ医療看護学部、保健看護学部、2019年には診療放射線技師、理学療法士を養成する保健医療学部、2022年には臨床検査技師、臨床工学技士を養成する医療科学部を開設し、関連病院以外にも多くの医療機関に人材を供給しています。健康データサイエンス学部からも医療にかかわる人材を世に送りたいと考えています。

— データサイエンス学部の開設が相次いでいます。その中で順天堂大学の健康データサイエンス学部の特色は何かでしょうか。

少子高齢・人口減少社会が進み、日本全体が停滞してい

ると指摘されています。この打開策として、IT などのデジタル技術を活用して、一人ひとりの生産性を向上させることが求められています。そのためのデータサイエンスの人材育成が急務となっており、データサイエンスを学びたいという高校生や学ばせたいという保護者も増えています。

このような理由からデータサイエンス学部の新設が広がっていますが、本学には医療やスポーツでの知名度の高さといった強みがあります。そこで、「健康」を冠して健康データサイエンス学部としました。スポーツの世界では、オリンピックや箱根駅伝などにおいて本学の学生や卒業生が活躍しており、医療では医学部附属病院6施設、3500床以上の病床数を誇り、さらに今後、順天堂大学医学部附属埼玉国際先進医療センター（仮称）の建設を計画していて、圧倒的な規模があります。このような強みを生かして、医療やスポーツの知識を持ったデータサイエンティストを育成したいと考えています。

— 医療分野のデータサイエンスの現状について、どのようにお考えですか。

国を挙げて医療のデジタルトランスフォーメーション (DX) を進めるとして、「電子カルテ情報の標準化」や「全国医療情報プラットフォーム」に取り組んでいますが、非常に遅れていると感じています。しかし、これらを早急に進めたくても、企業や医療機関に人材が不足しているのが現状です。健康データサイエンス学部では、医療DXの推進を担う人材を育てていきます。

医療やスポーツの世界で活躍できる データサイエンティストを育成

— 人材不足が日本の課題ですが、人材を育成する上で、育てる側の人材も重要だと思います。講師陣の顔ぶれはいかがでしょうか。

新設であることから、教官を集めるのも苦労すると思いましたが、順天堂大学のネームバリューが大きく、AIや